

# 人生100年時代の健康寿命の 延伸に向けた健康づくり



香川県中讃保健福祉事務所  
健康福祉課 課長 岸田 伸介  
(統括管理栄養士)

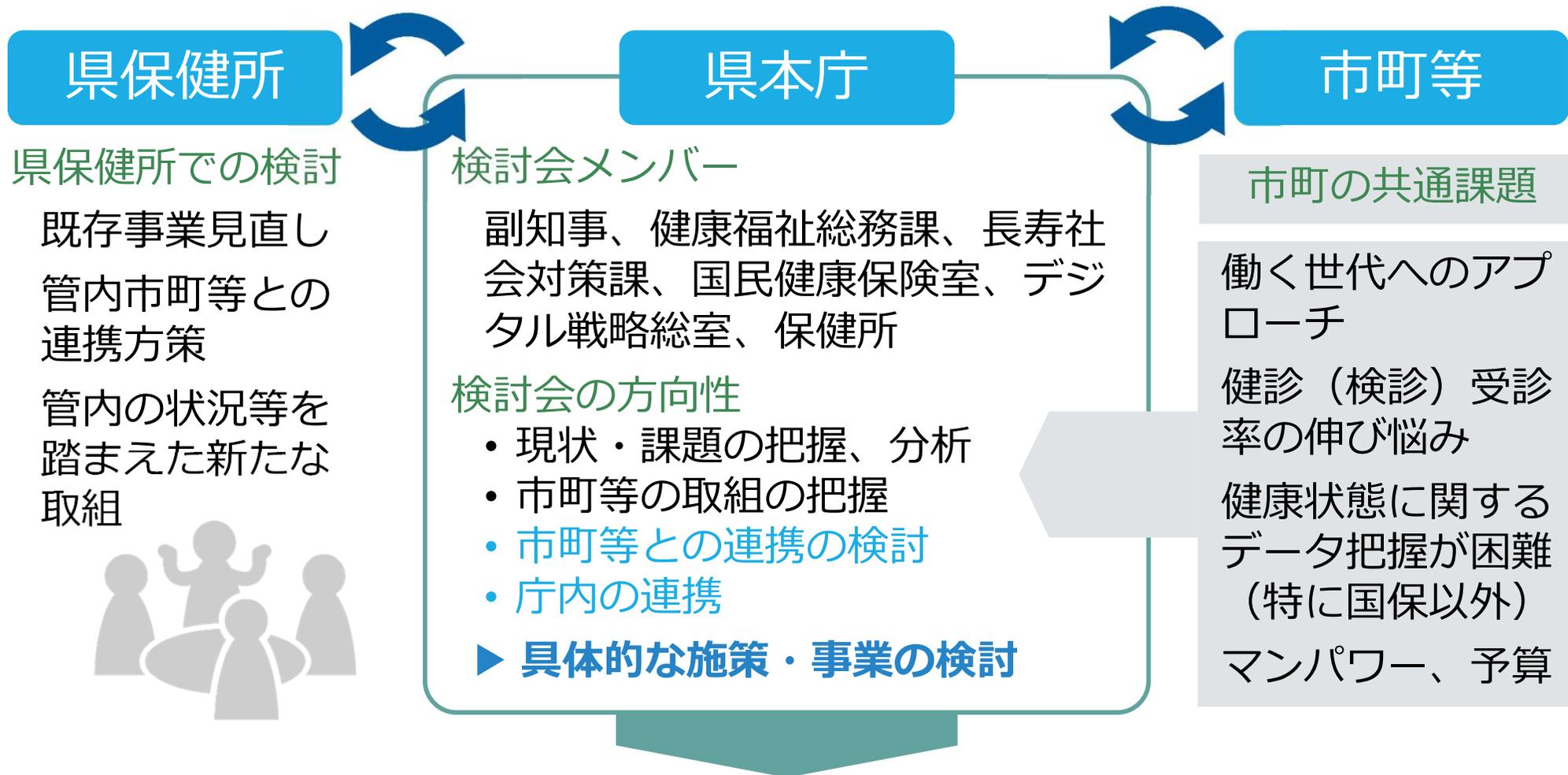
## 健康寿命の延伸は、県政の基本目標である 「人生100年時代のフロンティア県」の実現 のために不可欠

### 香川県民の健康状況、健康づくり施策の現状と課題

- 平均寿命と健康寿命には10 歳程度の乖離（男性9.22 歳、女性12.17 歳）がある
- 健康寿命の延伸には、要介護となる主要原因である認知症や骨折・転倒のほか、生活習慣病等への予防対策が必要であるが、市町の取組みには格差がある
- これまでの健康づくり施策は、対象を絞らないポピュレーションアプローチによる普及啓発が中心であり、健康意識の高い人には比較的伝わりやすいが、健康意識の低い人は実際の行動変容につながりにくい

# 施策化・事業化のプロセス

令和4年度～ 健康づくり施策の再構築に向けて庁内での検討会を開始  
令和5年度～ 市町等の現状・課題の把握、具体的な施策・事業の検討



健やか香川21ヘルスプラン  
（第3次）など県計画に反映

県の重点的な取組として  
事業・予算を策定

# 令和6年度の主な健康づくり事業

## 人生100年時代の健康寿命の延伸に向けた健康づくり

159百万円  
(R5:130百万円)

要介護の主要原因への対応 ⇒ 「認知症」「骨折・転倒」の予防対策を強化

がん・糖尿病などの「生活習慣病」等の発症・重症化予防 ⇒ 働く世代など 若い時期からの健康意識の醸成



### 小児生活習慣改善支援事業 17百万円

市町が行う児童生徒の血液検査・生活習慣調査への支援  
補助対象：小学4年生・中学1年生の検査  
補助率：1/2

### ★脊柱側弯症機器検診事業 14百万円

- 脊柱側弯症の正しい知識の普及啓発
- 検査機器を活用した市町の検査費用の1/2を助成

補助対象：原則小学5年生及び中学1年生

<脊柱側弯症>

脊柱が左右に曲がっている状態。思春期の女子が多く発症し、痛み等の症状は少ないものの、進行すると健康に影響を及ぼす障害等の要因となる。

### ★生活習慣・健康状態見える化事業 3百万円

健康測定器を活用した『骨密度・野菜摂取見える化チャレンジ』に併せ、保健師や栄養士による改善指導  
目標：年100回実施、実施場所：市町の集団健診や県内企業、スーパー等

### ★歯周病早期発見支援事業 2百万円

企業健診等に併せて歯周病の簡易検査・口腔ケア指導  
⇒ 県内企業の健診での歯周疾患検診の導入を目指す

### がん対策・検診受診率向上 18百万円

★「がん検診推進サポーター」を500人以上養成  
⇒ 受診勧奨や正しい知識の普及啓発につなげる



### 禁煙・受動喫煙対策推進事業 1百万円

★ 県庁舎における毎月22日の終日禁煙を実施

### 認知症対策 44百万円

★軽度認知障害(MCI)高齢者早期発見のためのチェックシート作成、MCIからの回復を目指す「認知症予防プログラム」の開発・実証  
⇒ 県内全域でのMCI高齢者の早期発見、予防プログラム実践の展開を目指す



### ★健康づくり政策推進アドバイザー事業 10百万円

健康づくり政策を研究している大学教授等をアドバイザーとして招聘し、県・市町の健康づくり政策の評価・分析を実施

# 生活習慣・健康状態見える化事業

健康への関心が低い若者や働き盛り世代に対して、健康測定器を活用して生活習慣や健康状態を見える化する「**骨密度・野菜摂取見える化チャレンジ**」を実施  
健康行動への変容を促すとともに、骨折が要介護状態となる主な原因の一つであることを踏まえ、市町における骨粗しょう症検診の実施や受診率向上を支援

## モデル市町の取組 ▶ 令和6年度：坂出市（今後はモデル市町の拡大を検討）

- 子育て世代からの健康づくりをテーマに、母子保健事業と絡めた事業展開
- 3～4か月児健診などを活用して、来所した保護者の骨密度や野菜摂取量を測定し、健康への意識付けを図るとともに、保護者の行動変容を促す
- 取組みの連続性、他の保健事業と連携した施策パッケージ展開などを検討

## 市町等の取組

- 骨密度測定装置及び野菜摂取量評価装置を県で各2台設置し、市町等の保健事業やイベント等での活用を促進

## 県保健所の取組

- 各保健所で事業所、学校、市町、団体等と連携した取組を実施
- 中讃保健福祉事務所ではスーパーマーケットと協力して来店者への測定や相談を行うとともに、食品売場で食生活の改善を促す取組を進める予定 ▶ **食環境づくりにもつながりたい**



行政管理栄養士は  
連携の推進を担う

# 健康づくり政策推進アドバイザー事業

健康行動への変容につなげていくために、健康づくりに関する社会学や行動学を専門に研究しているアドバイザーを招聘し、県や市町が実施する新たな取り組みへの助言や指導を受けられる体制を整備

## 健康づくりトップ会談 R6.6.13

ウェルビーイングの考え方が注目されている。健康づくりの視点から始まる様々な取組が、地域の活性化や県民の満足度に発展すると思う。

＜トップ会談ファシリテーター＞  
健やか香川21県民会議 会長  
香川大学 副学長 山神 眞一 氏

健康的な行動をとれていない人たちの理由やニーズを把握して、そこにアプローチしていきたい。

＜アドバイザー＞

東京大学大学院 医学系研究科 公共健康医学専攻 保健社会行動学分野  
講師 高木 大資 氏（坂出市出身）

県や市町、地域住民、そして企業や団体の皆さんも含めて一体となって、多面的に取り組んでいくことが大事。

＜アドバイザー＞

東京大学大学院 医学系研究科 公共健康医学専攻 健康教育・社会学分野  
講師 鎌田 真光 氏

香川のよいところを生かして、楽しく自然に健康づくりができるようなアイデアを実現していきたい。

香川県知事 池田 豊人